

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992700146		
法人名	特定非営利活動法人 もてぎ介護サービス		
事業所名	グループホーム つきのき荘		
所在地	栃木県芳賀郡茂木町大字馬門1373番地		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山林に囲まれているのどかな場所に、温かい印象を感じられるような木質化を図り、明るく開放感のある共有スペースをはじめ、プライベートな空間にも考慮し、又 地域の方々との交流や入居者同士とのコミュニケーションが持てるよう「ふれあいホール」のスペースも設けました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はのどかな山間の集落の高台に位置し、デイサービスやショートステイの事業所に隣接して互いに連携を取りながら高齢者へのサービスを行っている。日当たりの良い木の温もりを感じる建物の中で、職員は利用者に優しく接し、利用者が一人ひとり窮屈に感じず自分らしく生活できるように支援している。入居して元気をとり戻し、生活を積極的に楽しむ利用者も出てきている。ボランティアの受け入れの他、地域の祭りや神社に出かけたり、つるし雛見学を楽しんだり、お神輿が来てくれたりと、地域との交流の場を多く持ち、地域とのつながりを深めている。開所して2年に満たないが、職員が意見を出し合って作った独自の理念を事業所の全職員が共有し、サービスを実践している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年2月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、グループホームの理念を新たに作成し「ひとりひとりが主役で笑顔あふれるつきのき荘」と決定し改めて、事業所独自の理念に基づいて、利用者サービスへの実践に活かして行きたい。	全職員の意見をもとにまとめたグループホーム独自の理念を掲示し、送り時や職員会議の場を活用して管理者と職員が共有し、サービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2年目と言うことで地域活動の機会が多くなり月に何組かのボランティア等が関わり積極的に参加させて頂いています。又、3ヶ月に1度の広報誌を法人(3施設)で取り組んでいます。	地域の祭り、神社の茅の輪ぐり、つるし雛見学などに積極的に出かけている。敬老の日に子供たちが町の記念品を届けてくれたり、家族や地域の友人の訪問、和太鼓、四ツ竹踊りなどのボランティアの訪問、お神輿が来てくれるなど、年間を通じて地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に研修等に行った職員から発表してもらい、資料など配布し、少しずつ理解して下さる様子が見られる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、利用者様の状況を報告し職員の学習、取り組みをお伝えしている。家族、民生員、地域協力者、町職員の参加は、協力的です。その中で意見等を積極的に質問して下さい。(今回、心肺蘇生法、異物除去法の研修も実施出来ました)	町の担当者・民生委員・地域住民・家族の参加のもと、2か月ごとに開催している。利用者の状況や事業所のサービスの取り組み状況などを説明し、意見をもらい、運営に活かしている。	主なテーマを年間計画で設定したり、固定のメンバー以外に時には警察・消防関係者など、他分野の方に声掛けするなど、より多くの参加、意見が得られるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	去年に引き続き担当の方が協力して下さい、心強いです。情報交換等の相談も連絡下さい。	町の担当者が毎回運営推進会議に出席している。日頃から事業所からの相談に対応してもらったり、折に触れて研修情報や制度の情報などを提供してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会等、実施し職員、皆理解しているが、やはり危険性がある為玄関の夜間の施錠はやむをえない。	全職員がマニュアルを持ち、身体拘束をしないケアの実践に努めている。2ユニット合同で月1回、各ユニットでは随時勉強会を行っている。職員は、送り時や日常において気づいたらその場で注意しあうようにしている。利用者が外出しそうな時には職員がついて行き、見守りながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会を開き全員が理解はしているが、ただ、認知症とは、難しい病気で、職員間で、より良いケアを又、職員にとっても、心のケアが必要だと思う。その都度、話し合い等を設けるよう心掛けている。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所、権利擁護や成年後見制度についての勉強会は、まだ詳しくは行っていないが、徐々に2年目と言う事で、研修等設けて行きたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新たに入所された方々にも分かりやすく、又、質問等に関しても納得して頂ける様、説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営、又、家族の意見等は、連絡ノートからさらに家族からの連絡ノートを設け、活用しています。家族とお話の中で、要望を聞かせて頂き、広報誌の活用も重要となっています。皆が、状況を周知できるよう、取り組んでいます。	家族の面会は多く、時々家族食事を開催するなどして情報交換したり、意見を聞く機会を多く設けている。家族から出された意見・要望は職員が家族ごとの連絡ノートに記入し、職員間で共有し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大分、職員からの意見や提案が出されている中、改善提案カードを設けその都度、全体ミーティングの中で話し合いをするようにしている。今までも、いくつか取り入れている。	職員連絡ノートや職員の提案で設けられた「改善提案ノート」などにより、日常的なちょっとした意見・提案も出しやすいようにしている。出された意見等は職員会議で検討し、時には理事長に報告して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、向上心とやりがいを持って働ける様自己研鑽に努めるよう指導されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の研修等を法人で行かせて頂き皆、積極的に参加している。それによって、自信ががついて顔つきや態度も良い方向に変わって行く姿が見える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他、法人との交流や連携は、職員の質の向上及びサービスの質の向上においても必要性高く、今後も続けて取り組んで行く。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安感の無いよう職員全員が、利用者様に傾聴する姿勢を第一に考え、安心したホームの生活が送れるよう支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事、不安に思う事をお聞きし又、ご家族も安心してお預け出来るよう支援に努めています。幸いホームのご家族様は、気軽に意見を言って下さる為、気付く事も多々あります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要かを見極め、情報収集にも努めて行かなくてはならないと、考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もうすぐ2年になる為、利用者様と職員の間には信頼関係が築かれ、各ユニットごと1つの家族の様に談笑や行事を一緒に言い、喜び楽しみ、和気あいあいの様子が見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の所、権利擁護や成年後見制度についての勉強会は、まだ詳しくは行っていないが、徐々に2年目と言う事で、研修等設けて行きたいと思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番は、どの利用者様も家族の支えが何より大きな力になっている為、その都度協力して頂き、共に本人を支えて行く関係性を築いている。	家族や友人知人の面会が多く、日当たりの良いふれあいホールで外の景色を見ながら談笑できるようにしている。駅の桔梗館につし雛を見に行ったり、城山公園のつつじ等の花見、神社の茅の輪くぐりの見学など、馴染みの場所や人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の小さなトラブル等は時々あるも、間にスタッフが入り不穏にならないよう配慮しつつ、支援しています。中々、溶け込めない男性利用者の方は、何度も声かけし関わって頂くよう努めている。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様とも、今も変わりなく、来所して下さるご家族様もいらっしゃり、今までと何ら変わらず、相談・支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人が、自分らしく生活して行けるように努めています。昨年同様、徐々に自立に向かって行かれる方が、何人かおられます。それぞれの、思いや意向を尊重したい。(車椅子～自立歩行)	職員は利用者に係わる時間をできるだけ多く取り、話をする機会を作るように努めている。家族からの情報も参考にして、本人の思いに沿えるよう支援しており、利用後に自立が進み積極的な生活を送れるようになった方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境等に関しては、基本情報により把握している。又、徐々にご本人より、会話の中で聞き取る事やご家族の面会で、聞き取る事も多くある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2ユニットで稼働し始めて、約1年になり、両ユニットに配置され、今まで以上に一人一人の1日の流れを把握し支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	昨年同様、利用者様が安心したより良い暮らしが出来るよう、その都度状態に応じてモニタリングを随時行っています。様々な視点での意見があり、それぞれの思いを知る事が出来ます。	本人及び家族の希望を把握し、担当者会議にて検討の上、ケアマネジャーが計画を作成している。家族を介して主治医の意見ももらっている。見直しは3か月から6か月ごとを基本として、大きな変化があった場合は随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌の中や、個人連絡ファイルを毎日、目を通し、情報を共有する機会を設け、見直しを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には医療機関への入院や、体調によって柔軟な支援やサービスを家族との連携を取りながら対応しています。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターやボランティア、理美容院、病院、消防等の協力を得ながら、安全に過ごして頂けるような支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、本人及び家族の希望により支援している。又、歯科、眼科等の受診も同様です。基本、家族の協力において受診及び処方をして頂くが、どうしても家族の都合のつかない時は、職員(管理者)が対応している。	本人及び家族の希望によって、利用前からのかかりつけ医の受診を支援している。往診をうける利用者もいる。家族を通して事業所と主治医との間でメモ等の受け渡しを行い、医療情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護職員に診て頂き指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際に情報提供は互いにしており、報告や相談は定期的に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院中に悪化や状態の変化が見受けられた場合は、まずご家族に報告し、家族等、混じえて相談の場を設けている。その中で十分に方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用開始時に本人・家族と話し合い、重度化した際や終末期に事業所として支援できることなど説明して了解を得ている。食事がとれなくなった時、医療が必要になった時等、段階に応じて本人・家族と話し合いを設け方針を共有している。いつでも対応できるように個人ごとに必要な事項をファイルにしてある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の際、ある程度の初期対応は、毎月の勉強会の時に実践しているが、まだ定期的には実施は行われていない為、今後の必要性を考慮し実施する予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民、各利用者(ユニット)、職員の連絡網を作成し、又備品なども確保し利用者様を安全に避難させることを実践している。	防災・避難訓練は3施設が連携し、年2回消防署の立ち合いのもとで行っている。避難場所も決まっている。近隣住民や運営推進会議のメンバーに緊急連絡網に加わってもらっている。水、食料、トイレトペーパーなどの備蓄も整備している。	夜間想定訓練や煙体験訓練などを取り入れたり、地域住民の参加を得て、具体的に協力してもらおう役割を確認するなど、災害に対する更なる取り組みに期待したい。

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーについては、最も大切な事であると考えている。職員は常に敬意を持って接しております。	職員は、利用者の人格や誇り、プライバシーについて職員会議でも学び、利用者に対して、また職員同士でも優しく丁寧な言葉遣いに徹している。トイレやおむつ交換には他人の目を配慮している。どううまく対応してあげられるか、家族だったらどう感じるかと思いながら利用者に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様主体での支援を心掛け、常に積極的に関わり困難な場合でも良い関係性を築いて行けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1年8か月が経ち、大分良い流れになってきています。毎日、各ユニットのペースでレクリエーションや体操を、「そろそろ、始めよう」等、利用者様から声かけあり、有意義な時間がもてるようになり、安心している所です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは勿論だが、イベントの際女性は髪を束ねたり、紅をさしたり又、浴衣を着て頂いたり昔に帰った様だと喜んでおられ、今後もこうした事を増やして行きたいと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今の所、調理をしてもらう事は難しいが、旬の野菜を剥いたり、切ったりと皆、協力的に関わって下さる。又、うどん、そば(手打ち)は、職員が目の前で披露するなど、楽しみながら参加されている。	利用者の希望を聞いて、見た目や味にも配慮して職員が調理している。「ゆずの郷」のゆずを使っておやつにしたり、職員手作りのそばを味わってもらったり、正月は粉餅を出すなど、季節感を感じられるような工夫もしている。食器洗いや片付けなどを職員と一緒にを行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の摂取量その他については、各自職員達が把握しており、食事が進まない時は、声掛けしながら少しの変化等の気付きを大事にしながら食事形態を工夫し自力摂取出来るよう支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、全職員が周知しており、1日3回の食事の後はほぼ実施されている。殆どの利用者様が援助を要するが、習慣になっている。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中の排泄は、殆どの利用者様がトイレ内で行っている。(例えば:入院されていて寝たきりの方も今はトイレでの排泄を支援している。車いすでご自分でトイレへ行かれ自力で排泄が可能になられた。)	各ユニットに5つずつトイレを配置し、夜間はおむつ使用の方もいるが日中はほとんどの方がトイレで排泄している。24時間シートで個々の排泄のパターンを把握し、部屋にコールボタンを付けて、夜間も含め、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	やはり水分不足や運動不足が主で、入所するまでは浣腸等を頼っていた利用者様も、車いすでホール～居室、その他の行き来をしている為、身体を動かす機会が増え、今は自力で排便できるようになった。殆どの方に便秘は見られない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングが合わない利用者様はいましたが、今は週2～3回のシャワー浴が可能になっています。職員の声かけにより可になり、他の利用者様は、定期的に東西ユニットに分かれて実施しています。特に、西ユニットの方はお風呂好きが多く希望者が沢山います。	入浴は2時から4時の時間帯に、週2～3回のペースで行っている。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯も取り入れ、歌を歌う方もいる。入浴を拒否する利用者には無理強いをせず、シャワー浴で対応するなど、個々の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今は、2ユニットで稼働しているも、個々の生活習慣を職員が把握し、大切に受け止めている。ただ、日中、臥床時間が多いと昼夜逆転等も考えられるため、声掛けにて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については少しずつ理解しています。又、名前、日付、を大きな声で確認しながら誤薬のないよう周知している。(各ユニットごとで、申し送りをしている。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割、楽しみ事は毎日の流れで把握しており、(ある人の役割は、洗濯たみ、ゴミ集め、楽しみは、カラオケ、ゲーム等)1日楽しく過ごして頂ける様支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年ほど遠出は出来ないものの、近所につつじや彼岸花を見に行ったり、沿道でマラソン大会を応援したりと外に出る機会は設けています。外の空気を吸い景色を見るだけでも、表情が変わります。	山に囲まれた自然溢れる環境の中で、近くの山につつじを見に行ったり彼岸花の咲く道を歩いたり、日常的に外出している。城山公園や道の駅、隣県の七夕まつりに車で出かけたり、街道に出てマラソン大会や歩け歩け大会を応援するなど、積極的に戸外に出る機会を作っている。	



グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を持つことは殆どないものの、家族が中々面会に来れず、多少の金銭をお預かりしているケースもあり必要なもの又は、散髪料等は、こちらからお支払しています。各個人の買い物についてはまだ実践できていないが、販売カー等の取り入れも検討しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話又手紙に関しては、携帯電話を持っている利用者様は、自由に部屋でお話されています。以外の方は、気になる事があればスタッフよりかけて、直接お話ししてもらおう事があります。手紙のやり取りも何人かはされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、(玄関)利用者様がそれぞれ描いた物や詩等を貼りつけたり、月ごとに各ユニットに利用者様の希望される掲示物を飾らせて頂いております。又、春夏秋冬、季節の花や野菜をプランターに植え、収穫して頂いたり花を見て穏やかに過ごされています。	建物全体が木材を十分に生かした造りで日当たりも良く、白を基調とした壁や天井、淡いピンクのカーテン、床暖房等、五感の刺激に配慮している。季節の花を飾り、壁には利用者や職員の作品を掲示している。2つのユニットの間にある「ふれあいホール」は広く、大きな木製の椅子とテーブルを置き、眼下に町や山が見られる大きな窓があり心が休まる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人それぞれで、一人であるのが良いと思う人もいれば、皆と談笑を楽しみにしている人もおられ、一人ひとりの時間を大切にしています。その日によって違いはありますが、それぞれに合わせた支援をその方が笑顔になれるようお手伝いしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人様や家族様が配置を考えて、居心地良く過ごせるように工夫しておられます。装飾物、表札等も同様、ご本人と相談しながら選ばれています。	ベッド・エアコン・収納・カーテンは備え付けである。入口ドアには利用者の好みの飾りをあしらった紙製の表札をつけている。室内には思い思いに家族写真や自分の作品を飾り、冷蔵庫やテレビなど自由に好みのものを持ち込めるよう支援している。掃除は職員が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、分かる事を活かしてお手伝いさせて頂いています。又、自立に向けて生活できるよう支援に努めています。		